

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	<p>学校規模適正化は必要だが、教育の中身も大切である。7～15歳までの幅広い年齢が学ぶ義務教育学校は県内でも5校しかなく、教職員や子どもたちに大きな負担が予想される。これらの負担軽減や、質の高い教育の実現のため、教育委員会としてどのような対応を考えているか？また、小中一貫校ではなく、義務教育学校での再編とした理由は？大川市では4中学校が大川桐英中と大川桐薫中に再編され、大川桐英中と大川小は小中一貫型連携校として取り組んでいる。また、市内の全学校で小中高大を含めた校種間連携に取り組むことで、大学進学を見据えた教育が行われており、魅力を感じる。義務教育学校の場合、子どもの不安や負担を取り除くため、地区外の小中学校を選ぶ人がでてるのでは？</p>	<p>(学校教育課長)2点ご質問を頂いた。1点目が、義務教育学校を作るにあたっての市教委としての教育的支援について。2点目が、義務教育学校と小中連携校という同じ9年制でも違う形態の学校があるが、義務教育学校を選択した理由について。まず、義務教育学校の教育支援について、具体的な取組みの内容は、計画が固まった後に組み立てていく。次に、昭代校区で義務教育学校を導入する理由としては、昭代校区では隣接する校区の関係から、横の広がりを作る再編が困難であること、また、昭代地区は3校PTAが象徴するように地域の結び付きが非常に強いこと、さらに、昭二小と昭代中が隣接しており、義務教育学校として学校の整備が図りやすいことが挙げられる。私共は義務教育学校に大きな可能性を感じており、先程メリットを説明したが、一番大きいのは、1人の校長によるマネジメントが可能だ点だと考えている。小学校と中学校の先生の連携を考えると、小中連携校よりも義務教育学校の方が、手続き上、実務上のメリットが大きいと考え、今回の計画を策定している。</p> <p>(首席指導官)まず、義務教育学校と小中一貫校の違いについて。以前視察した学校は、当初、小中一貫で始めたが、その後、義務教育学校に変更した学校である。そこで聞いた話では、小中連携校は、2つの学校組織であるため、連携するためにはどちらかに合わせざるをえないという限界を感じていた。対して、義務教育学校では、校長が1人、教職員集団1つ、教育方針も1つという点で、9年間のカリキュラムを充実させることが可能となり、大きなメリットを実感したとのことである。また、1～9年生までの子どもたちが一緒にいて安全面が心配だという意見も多かったが、実際には、職員が期待した以上に中学生にあたる生徒が下級生のことを思いやり、学校全体の落ち着きに繋がった。次に、教職員の連携と指導力の向上についてだが、別々の学校では、小中それぞれの先生の良さをお互いに学び合うことが難しかった。小中学校が隣接する場所にあっても、中学校の教員が小学校で授業をするには、小学校と中学校で授業時間が異なるため、その授業および前後のコマを空ける必要があった。しかし、義務教育学校では、5・6年生の段階から授業時間を50分にするなどの調整が可能であり、小中学校の教員の強みを生かした授業分担がロスなく行えるようになる。また、小中一貫校で中学校の教員が小学校で授業を行うためには兼務辞令を発令する必要があるが、義務教育学校では煩雑な手続きなしにフレキシブルに往来できる。視察した学校では、先生の交流が容易になったことで、お互いの良い部分を学び合い、指導の質が高まったそうである。これらが、様々な情報を集める中で感じた義務教育学校の良さであり、昭代校区でも培っていきたいと考えている。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1 つづき	我が子が中学受験を経験した際に、コロナ禍で卒業式や入学式を経験できなかったことから、精神的な負担がとても心配で発言させていただいた。義務教育学校では小学校課程の修了時点で卒業式という節目の行事がなく、卒業証書が受領できない点や、他の学校へ進学する子どもは転校という形になる。従来と違う形になることによる影響が心配である。	義務教育学校という新しい制度について不安に思う気持ちは分かる。保護者対象の説明会でも、6年生修了時に卒業式がないことに驚きの声が上がった。これについては、学校が企画することで、卒業式ではないものの、保護者参加の上で式典を行うことは可能である。また、義務教育学校で学ぶことで、普通の小中学校では経験できない学びがあるのではないかと思う。さらに、再編直後の学校に対しては、教育委員会として可能な限りの支援を図り、子どもたちが不安に思わないよう、またスムーズに教育活動が展開できるように支援していきたい。加えて、質の高い教育ができるような様々な取り組みを取り入れていきたいと考え、昭代校区の義務教育学校というご提案をしている。ご理解ご協力をお願いしたい。
2	小学校と中学校という概念が無くなるということか？	義務教育学校は、小学校と中学校を合わせた9年制の1つの学校である。ただ実際には、小学校相当の6年間で小学校の教育課程を学び、その後3年間で中学校の教育課程を学ぶ。例えば、中学校籍の教員が5・6年生に対し、中学での学習にスムーズに繋がるように教えることはあるかもしれないが、極端なカリキュラムの前倒しを行うことはない。
	運動会等の行事はどうなるのか？1～6年生までと、7～9年生までで分けて行うのか？	1～9年生まで大きく発達段階が異なるため、学校全体で行う行事と、いくつかの学年区分に分けて行う行事との両方が想定される。運動会をどのように行うかは、学校で決めることになるが、それぞれの行事の目的に応じて、うまく組み合わせる実施することになる。
	現在の昭代校区では、中学校から制服になるが、義務教育学校での制服はどうなるのか？	制服については、今後、新しい学校ごとの再編協議会(仮称)で検討を行う。制服の有無を含め、ゼロから検討していただくことになる。昭代校区では、中学校から制服であるため、これまでと同様に6年生までは私服、7年生からは制服という対応も可能である。また、中学校の制服については、教育委員会でジェンダーに配慮した標準服の導入を検討している。間に合うようであれば、新設校で標準服を採用することも可能。他に、既存の制服の着用を認めることも可能である。できるだけ保護者の負担にならないようにしたいと考えている。
3	統合後の学校は、なぜ昭一小ではなく、昭二小なのか？単に中学校が隣接しているからか？	一番大きな理由は立地の問題である。昭一小に統合するには、施設の規模が足りず増設が必要だが、周辺環境を考えると用地の拡張が難しい。昭二小と昭代中であれば一体整備が可能のため、今回の計画案を策定している。
	義務教育学校になっても、小学校相当の児童は小学校の校舎を、中学校相当の生徒は中学校の校舎を使用し、グラウンド等も分けて利用すると理解して良いか？	統合後は、小中学校間の塀は取り除くよう考えている。また、小学校校舎は小学生のみという使い方ではなく、一つの学校として設備を一体的に使う。グラウンドについても、第一グラウンド、第二グラウンドのような形で、小中両方で適宜利用する方向で進めたい。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
3 つづき	昭一小は、数年前に大規模な改修工事を行い、校舎やトイレが綺麗になった。過ごしやすい環境が整ったにも関わらず利用しないということか？	市内の全ての小中学校で、耐震補強工事は完了している。また、改装の規模は学校ごとに異なるが、これまでも子どもたちの安全な教育環境のための投資をしてきたところである。跡地及び残る施設の活用方針は未定であることと、昭一小の方が綺麗なことを考えて、そちらに統合して欲しいという思いからのご意見かと推察するが、規模を鑑みての判断であるため、ご理解いただきたい。当然の事ながら、これからは統合により学校数が少なくなるため、統合校に資金を集中させ、設備の充実を図っていく考えを持っている。
4	資料の1ページに記載されている望ましい学校規模と比較すると、計画案は望ましい規模よりも大きな学校を作ろうとしている。これはなぜか？  昭代校区だけでなく、(仮称)三橋小や(仮称)大和小も規模が大きい。特に大和中と三橋中の統合中学校の規模がとても大きいようだが、ここについてはどうか？	資料の1ページの記載は、柳川市立学校適正規模・適正配置化検討委員会で議論をされ、意見をまとめていただいた答申の内容である。現在、小学校は1学級35人という国の基準があり、それを基に学年2～3クラスを確保できるように、今回の計画案を策定している。昭代校区の義務教育学校では、令和10年度で520人の19クラスとなる。9学年なので、1学年2～3クラスである。  現時点で、統合した場合に最も規模が大きくなるのは、大和中と三橋中の統合中学校である。開校する令和9年度では793人の22クラスとなる見込みだが、中学校の生徒数は急激な減少傾向にあり、令和16年度には606人の16クラスとなる見込み。この時点で、1学年だけ6クラスでその他は5クラスという学校規模である。また、この人数は市外の学校に進学する人数を考慮していないため、ここから更に1割ほど減り、全学年5クラス程度の学校規模となると考えている。